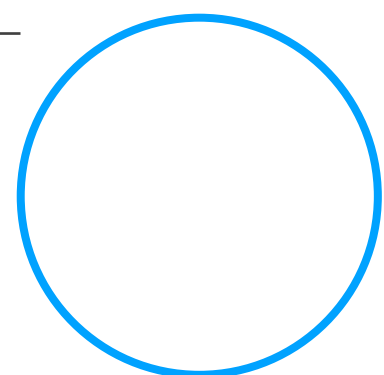
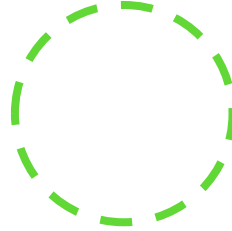


初任研修・現任研修の概要

令和7年9月5日

一般社団法人福井県相談支援専門員協会 大角嘉伸





各研修のつながりについて

初任者研修

相談支援の目的と視点を学びつつ、ケアマネジメントプロセスの一連の流れを体験の中で獲得する。

価値や理念の習得

現任研修

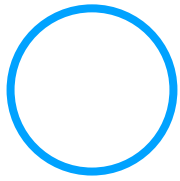
初任研の内容を学び直すことで、継続的な学びの機会を確保すると同時に、自身の実践を振り返る。

振り返りと熟達化

主任研修

相談支援専門員の支援スキル等について適切に評価・助言を行い、相談支援の質の確保を図る役割をもつ。

地域を作る相談員



現任研修の獲得目標

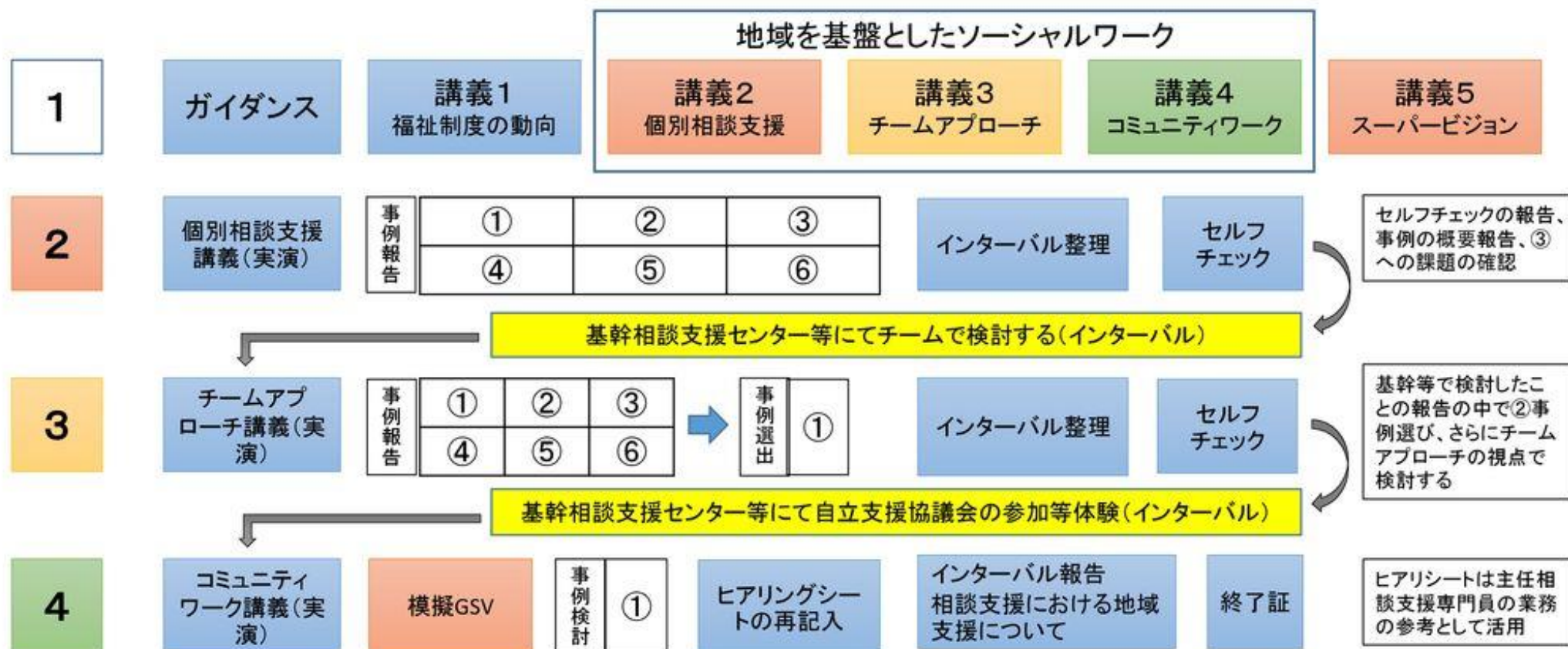
- I. 相談支援の基本的業務を確実に実施できる。
意思決定（支援）を通して生きがいや自己肯定感を
高める支援（ストレングス）、相談支援の技術と能力の獲得
- II. チームアプローチ（多職種連携）の理論と方法を学び、
実践においてチームアプローチが展開できる。
チームアプローチ（多職種連携）を実践するための技術と能力の獲得
- III. コミュニティワーク（地域とのつながりやインフォーマル
サービスの活用、社会資源の開発等）の理論と方法を理解し、実践できる。
地域に即した相談支援の実践力の獲得
- IV. スーパービジョンの理論と方法を学び、実践事例を用いてグループスーパービジ
ョンを体験することで、自らの支援について助言・指導を受けることの重要性を
理解する。

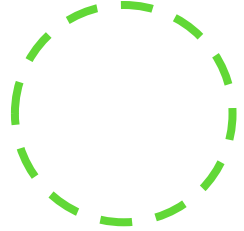
現任研修の構造

資料1

獲得目標

- ①相談支援の基本的業務を確実に実施できる。
- ②チームアプローチ(多職種連携)の理論と方法を理解し、実践の中でチームアプローチが実践できる。
- ③コミュニティワーク(地域とのつながりやインフォーマルの活用等)の理論と方法を理解し、実践できる。





初任者研修について

○初任研・現任研の概要（研修の構造と獲得目標）

○学びの構え（主体的な学び）も獲得目標

→演習で演習講師がファシリテーターとして学びを支援

そのため、演習講師の学習観の転換は特に重要

→演習講師は、実地研修の学びも支援（行政や基幹、主任と力を合わせて）

○相談支援の目的と基本的視点

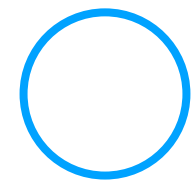
→研修中、何度も繰り返し確認。それぞれのワークでも活用。

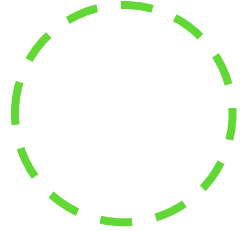
○初任者研修の実際の演習を簡略化した形で体験（鈴木春男さんの事例）



- ・ストレングスに着目するためのストレッチ（リフレーミングを活用）

- ・ニーズ整理票の作成



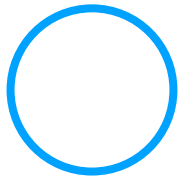


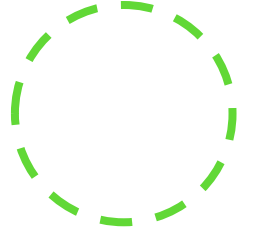
相談支援の目的

相談支援の目的

- ① 本人のその人らしい地域での暮らし
 - 1) 障害者の地域生活支援
 - 2) 障害者の自立と尊厳の確保、社会参加
 - 3) 自己決定(意思決定)への支援・権利擁護、エンパワメント、リカバリー
 - ② 障害のある人を含めた誰もが暮らすことのできる地域づくり
- = 地域を基盤とするソーシャルワーク

ケアマネジメント手法においても変わらない。



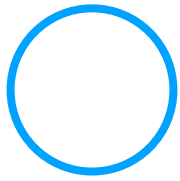


相談支援の基本的視点

相談支援の基本的視点：

- ① 個別性の重視
- ② 生活者視点、QOLの重視
- ③ 本人主体、本人中心
- ④ 自己決定(意思決定)への支援
- ⑤ エンパワメントの視点、ストレングスへの着目
- ⑥ 権利擁護(アドボカシー)、スティグマ
- ⑦ 地域の多様な資源へのアクセスと活用、資源開発
- ⑧ チームアプローチ、多職種連携

ケアマネジメント手法においても変わらない。



アセスメントとは

演習 1 相談支援におけるケアマネジメントに必要な視点と技術

【定義】

本人の夢・希望の実現や課題の解決に向け、
必要な根拠(情報)をおさえ(収集し)、整理・分析する。

【具体的には】

- 例
- ・ 本人の人となり
 - ・ 本人の夢・希望、解決したい課題。
 - ・ それに向けて必要な状況把握
(本人や環境に関する多角的・総合的な情報)
 - ・ 支援者自身の考え、本人像の解釈、支援の方向性
 - ・ そのための手立て

情報を集めるだけじゃないんだ！

どんな情報をとればいいのか？

情報の分析?????

アセスメントとは

演習 1 相談支援におけるケアマネジメントに必要な視点と技術

(1) 情報の収集

「なんでそんなこときくの？」に答えられる質問ですか？

本人のゴール・解決したい課題に向け必要な情報を得る。

(2) ニーズ整理

ヒトの頭の中では、これらが同時並行的に情報処理(認知・判断)されているよ！

- ・ **援助者（自分）の判断の根拠**を可視化、言語化する。
- ・ 本人の意思、客観的状況、支援者や周囲の判断を分けて整理する。 Ⅰ 基本原則: 本人の言葉や意思・選好からはじまる。

◎前提となる、相談支援の目的と基本的視点は不変

アセスメント票は…

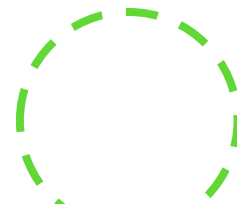
整理・分析の補助をするための可視化ツール
偏ったみかたにならないように「鳥の目」の効果
票の網羅がアセスメントではない！
ツールは多種多様です。道具選びと使いこなし！

インテーク
情報の収集

ニーズ整理
情報の整理・分析

広義のアセスメント

ニーズ整理



インタビュー

情報収集と整理



アセスメント

理解・解釈・仮説



プランニング

対応・方針の策定

理解しにくい

主語→3人称

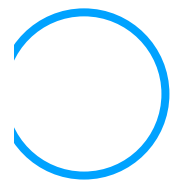
「本人がこう言った」
「母親がこう言った」
「主治医がこう言った」 など

主語→1人称

「私はこう理解している」
「私はこう捉えている」
「私はこう推測している」 など

そこから何が言えるのか？

どのような支援課題があるのかを言語化することがアセスメントの一部となる



ニーズ整理票（例）

近藤直司

『医療・保健・福祉・心理専門職のためのアセスメント技術を高めるハンドブック』

「必要な事」

ニーズ整理票		アセスメント			プランニング	
インテーク		理解・解釈・仮説 （作成者のとらえたかた、解釈・推測）		理解・解釈・仮説② （専門的アセスメントや他者の解釈・推測）	支援課題 （支援が必要と作成者が思うこと）	対応・方針 （作成者がやろうと思うこと）
本人の表明している 希望・解決したい課題	（作成者の）おさえておきたい情報	生物的事実 心理的事実 社会性・対人関係の特徴	赤 黄 青 緑 橙	1 3 2 4 5	赤 黄 青 緑 橙	1 3 2 4 5
今回大づかみに捉えた本人像（100文字程度で要約する）						

今回の研修では、時間の都合上省略しますが、相談支援の実務ではとても重要な部分です。

初任者研修に二ーズ整理票の演習がある理由

- 支援者は、本人が表明する主訴から、すぐさまその対応を考えると、本人の思いよりも実際に起きている事象に着目しやすくなります。そうすると、本人のストレングスへの着目やエンパワメントの視点から、課題中心へと引っ張られ、プランニングも限定的なものになってしまいます。
- 受講生も同じで・・・

□ありもしない情報から妄想する場合があります

□時には、根拠がないのに「そうに違いない！」と決めつけたり、妄想が情報にすりかわることがあります

□見立てを飛ばしてプランニングに入ってしまう場合があります

□本人の中の魔法を信じず、早くサービスや支援者でなんとかしないと一生懸命になる場合があります

□本人が希望していないのにおせっかいをしたくなる場合があります

だから、インテーク、アセスメント、プランニングの枠組みで構成されていて、「見立て」と「根拠」のつながりを意識しやすい特徴がある二ーズ整理票を使った演習して、下記のことを学んでいただきます。

○本人の言葉、本人の理解から始めて得た情報を客観的事実と相談支援専門員の主観とに整理しながら、本人の想いを軸に、根拠のある情報から見立て、支援が必要なこと、手だてを考えるプロセスが大事。

○相談支援専門員の考えを本人や関係者と共有しないと意味がない。共有することで、本人の希望に向かって協力・連携できる。そのためには、根拠を含めて共有しないと協力・連携ができない。

○相談支援の8つの視点にある「エンパワメントの視点、ストレングスへの着目」もやっぱり大事。